

## 『私の大学卒業後の人生を振り返って』

東海大学東欧会

乾 万季（1990年度東欧課程卒業）

『お母さん行かないでー』。泊まりがけの仕事に出る朝、泣きながら私から離れられなかった長女は、現在社会人となり保育士として0歳児の担任をしている。保育園のお迎えはいつも最後。インフルエンザで高熱を出した時、泊りの仕事でお母さんはいつも不在。上履きやお弁当のお箸を忘れても誰も届けにきてくれる人はいない。それでも、友人に助けられ、学校の先生や地域の方々に温かく見守られ親子で成長してきた。「赤ちゃんが大好き！」と言う長女の原点はいつも保育園で温かく包み込んでくれた新任の保育士の先生の存在があった。夢と希望を持って一人暮らしを始め、新入社員として働き始めて半年。人間関係に悩み退職を決意した時、同時に最愛の愛犬が3歳で急死してしまった。さらに、コロナ禍とも重なってしまい会いたい人に会えず辛く悲しい時間があったが、多くの人に助けられてきた。

『私の青春を返して！』。コロナ禍で思い描いていた大学時代を送れなかったと嘆いていた次女。「アルバイトで貯めた資金で海外旅行へ行きたい！」という夢を抱いていた。どうしようもないやり場のない感情。その中でも自分を見つめる時間をつくっていた。VUCA時代（※）といわれるいま、コロナやロシアのウクライナ侵攻、自然災害など予測できないことが次々と起こっている。しかし、視野を広く持ち『今できること』『夢中になれること』に向かって模索しながら就活と卒論に奮闘している次女の姿に、私の方が勇気づけられてきた。無事卒業ができれば春からは社会人になる。宿泊を伴う仕事でさみしい思いをさせることが多かったと思うが、それでも多くの人の愛情を感じ遅く成長してゆく姿は私の原動力であった。



写真はイメージです

『最期は家で迎えたい』。そんな父の言葉を尊重して、アルツハイマー型認知症の父の介護を10年にわたって在宅で行ってきた。地域のケアマネさんや介護福祉士、家族、友人など多くの人のサポートを受けてきた。しかし、転倒することが増えてきたこともあり、大好きな鰻を食べながら90歳の誕生日を家族でお祝いして、施設へ入所することを決意した。現在施設にいる父にオンラインで面会すると、明るく母に向かって『ありがとうねー』『会いたいよー』と言葉のやり取りができることは、介護施設の皆さんのサポートのお陰であり、安心して頂けることに家族としては感謝しかない。そして、90歳になっても明るく前向きに！施設の方にサポートしてもらい頑張っている父を見て元気をもらう。

『もう仕事を辞めようかな・・・』。忙しすぎて大切な家族に向き合えないことが多く、小さい頃から子供たちに寂しい思いをさせてしまったと感じていたため、何度か家族につぶやいたことがある。しかし、「今さら何をいつているの？自分勝手だね・・・好きにしたら。」と言われる始末である。大学を卒業し社会に出て30年。会社の

---

経営破綻を経験した時には、お客さまから叱咤激励を頂いたことがあった。会社を去ってゆく先輩たちもいた。それでも、目の前のことに真摯に向き合って、一步一步積み重ねていくことで自ずと道は開け、ご縁で生かされている。と感じている。困ったら友人や家族に相談する。助けてもらったら「ありがとう。」を伝える。困っている人が居たら優しく声をかける。シンプルだがこの繰り返しで多くの人の温かさに何度も救われてきた。

(※) VUCA とは、Volatility・Uncertainty・Complexity・Ambiguity の頭文字を取った造語。未来の予測が難しくなる状況のこの意味。

---